

分科会開催報告書

報告日	平成 27年 12月 3日	報告者	田中徳明																																										
分科会名	浮雲俳句会	開催テーマ	第94回浮雲俳句会例会																																										
開催日時	平成27年 11月 29日 午前 9:30~11:50	開催場所	金沢地区センター小会議室																																										
参加人数	“わ”の会会員 男 14名 女 5名 合計 19名 欠席者 0名																																												
<p>実施内容</p> <p>第94回例会の出句は兼題 ①猿島 ②初冬の人事前半 と当季雑詠2句の計4句。 句会は、大川一馬会員による添削披露及び同会員による選句の披講の後、北野主幸から、天・地・人各賞及び特選8句並びに佳作8句の発表と、それぞれの句についての論評があった。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">天賞句</td> <td style="width: 60%;">マフラーの薄手厚手と迷ふ日々</td> <td style="width: 25%;">祥 代</td> </tr> <tr> <td>地賞句</td> <td>時雨るるや猿島沖のイージス艦</td> <td>一 幸</td> </tr> <tr> <td>人賞句</td> <td>肩掛けの翼広げて風の中</td> <td>和 女</td> </tr> <tr> <td>特選句</td> <td>猿島や戦艦の先冬霞</td> <td>一 祝</td> </tr> <tr> <td></td> <td>湯豆腐の向かうの妻の笑顔かな</td> <td>重 九</td> </tr> <tr> <td></td> <td>阿夫利嶺に参りし後の紅葉鍋</td> <td>三 旦</td> </tr> <tr> <td></td> <td>燥ぐ子を宥めるカメラ七五三</td> <td>とも女</td> </tr> <tr> <td></td> <td>柴口の牡蠣小屋の灯と騒めきと</td> <td>一 馬</td> </tr> <tr> <td></td> <td>「末吉」の大社御籤や初時雨</td> <td>二 祥</td> </tr> <tr> <td></td> <td>一灯を深く沈めて冬の闇</td> <td>十 九</td> </tr> <tr> <td></td> <td>石落日和平潟湾をぶらつけり</td> <td>勇 平</td> </tr> </table> <p>主幸の指導 ①兼題の意味を考え、その持っている時季感を大切に ②句に己の主観を詰め込まず、モノで詠むのが俳句である ③囑目吟においても二物の対比の工夫で句の奥行が深まる</p> <p>会員選高点句</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">6点句</td> <td style="width: 60%;">乾ききる音聞きたくて落葉径</td> <td style="width: 25%;">一 清</td> </tr> <tr> <td>5点句</td> <td>鯉釣り猿島舳となし鱸となし</td> <td>一 清</td> </tr> <tr> <td>5点句</td> <td>自在鉤あるじ顔せし炉端かな</td> <td>あきえ</td> </tr> </table> <p>次回の予定 平成27年12月27日(日)午前 9時30分~午後0時 金沢地区センター 第95回例会 兼題①松島②人事 披講 重九</p> <p>その他 ○「十年の歩み」の進行状況の報告があった ○浮雲句会100回記念事業について、鎌倉吟行の提案あり。不採用。</p>				天賞句	マフラーの薄手厚手と迷ふ日々	祥 代	地賞句	時雨るるや猿島沖のイージス艦	一 幸	人賞句	肩掛けの翼広げて風の中	和 女	特選句	猿島や戦艦の先冬霞	一 祝		湯豆腐の向かうの妻の笑顔かな	重 九		阿夫利嶺に参りし後の紅葉鍋	三 旦		燥ぐ子を宥めるカメラ七五三	とも女		柴口の牡蠣小屋の灯と騒めきと	一 馬		「末吉」の大社御籤や初時雨	二 祥		一灯を深く沈めて冬の闇	十 九		石落日和平潟湾をぶらつけり	勇 平	6点句	乾ききる音聞きたくて落葉径	一 清	5点句	鯉釣り猿島舳となし鱸となし	一 清	5点句	自在鉤あるじ顔せし炉端かな	あきえ
天賞句	マフラーの薄手厚手と迷ふ日々	祥 代																																											
地賞句	時雨るるや猿島沖のイージス艦	一 幸																																											
人賞句	肩掛けの翼広げて風の中	和 女																																											
特選句	猿島や戦艦の先冬霞	一 祝																																											
	湯豆腐の向かうの妻の笑顔かな	重 九																																											
	阿夫利嶺に参りし後の紅葉鍋	三 旦																																											
	燥ぐ子を宥めるカメラ七五三	とも女																																											
	柴口の牡蠣小屋の灯と騒めきと	一 馬																																											
	「末吉」の大社御籤や初時雨	二 祥																																											
	一灯を深く沈めて冬の闇	十 九																																											
	石落日和平潟湾をぶらつけり	勇 平																																											
6点句	乾ききる音聞きたくて落葉径	一 清																																											
5点句	鯉釣り猿島舳となし鱸となし	一 清																																											
5点句	自在鉤あるじ顔せし炉端かな	あきえ																																											